
さあ、南の島へ

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さあ、南の島へ

【Nコード】

N31790

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

二人の男がアイドルのDVDを見ていた。

二人の男がアイドルのDVDを見ていた。
テレビの中ではアイドルがその自慢の胸を揺らしながら、砂浜を駆けている。

一人の男はその画面を見て、

（ああ、あの乳揉みしだきてえ）

と思い、一人は

（なんかものすごく肩こりそうだな）

と思っていた。

「決めた！俺は今から南国の島に行く！」

「・・・行つてらっしゃい」

「止めるよ」

「行けよ」

「・・・薄情だな、お前」

「そんな事はないと思うぞ。どう考えても男二人でこんなDVD見
てるのはおかしいだろ？ちゃんと付き合っ
て見ている俺が薄情なはずないだろ？」

「そんな事はない！世間一般の男子であれば普通の事。このような
会合は何処かしこで夜な夜な行われているのだ」

「聞いた事無い」

「お前は変人だからな」

「それは認めよう」

「認めるのか！？」

「うん」

「・・・そ、そうか。じゃあ、今から一緒に南の島に行こう」

「行つてらっしゃい」

「だから一緒に・・・」

「行つてらっしゃい」

「一緒・・・」

「行つてらっしゃい」

「そんなに行くのが嫌なのか？小麦色に焼けた健康的な美少女達が俺らを待っていると言うのに」

「ふむ、そうだな。お前に一つ言っておくことがある」

「何だ？」

「俺はツルペタ好きでスク水好きだ。新旧は問わないが、色は青限定である。白いのは駄目だ。何処の世界に南国でスクール水着を拝めると思う男がいるのだ。いや、いない。断じていない！行くなら市民プール！これだけは譲れない！」

「お前・・・変態だな」

「それは認めよう」

一人の男はまるで勝者のように誇り、もう一人の男は敗者のように膝をついた。

「分かったのなら、とりあえず帰って良いか？」

問われて、膝をついた男はリモコンを取り、DVDを初めから再生し始めた。

「いい機会だ。今夜はお前に巨乳の良さをとことん解説してやろう」
「馬鹿な。俺のツルペタへの愛の深さを知らないな。そんなことならとっと巨乳の彼女でもつくるんだな」

「そ、そんな、簡単に、彼女がで、きるん・・・なら・・・」

ああ、とめどなくあふれる涙でその内、海でも出来んじゃないかなあ。

「悪かった。俺が言いすぎた」

「だってさあ。お、おれ、巨乳が・・・」

「分かった。もう何も言うな」

そして、男達はまたアイドルが楽しそうに砂浜を走るDVDを見るのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3179o/>

さあ、南の島へ

2010年10月15日23時56分発行